



出水小学校 学校だより

そったく き
啐啄の機 R7 No. 4

令和7年5月30日(金)

熊本市立出水小学校

校長 : 横山 幸生

応援・ご協力ありがとうございました！

～みんなが主役！ 最高の仲間と思い出に残る運動会を楽しもう～

5月25日(日)、雨天のため順延となりましたが、令和7年度出水小学校運動会を開催いたしました。子ども達は演技に競技に全力で取り組みました。真剣な表情で最後までカー杯走る姿、思いを込めて豊かに表現する姿、リレーや団体競技など力を合わせて協力し合う姿など、子ども達の姿から改めて「一生懸命な姿は美しい」と思いました。この2週間あまりの練習を通して、自分のやるべきことをきちんとやり遂げる態度や、周りをよく見て、みんなのために行動する態度が身に付いてきたと思います。子ども達の成長をとてましたのもしく思います。

さて、開会式前の本部テントで放送担当の子どもと次のような会話がありました。

「校長先生、とても緊張しています。」

「分かるよ。校長先生もみんなの前で話をするとき、とても緊張するんだよ。」

「本当ですか？」

「緊張するってことはそれだけ真剣に取り組もうとしていることだよ。だから大丈夫だよ。」

「はい。」

この後、立派に堂々とアナウンスをしてくれました。

また、競技が始まると、リレーで負けて悔し涙を流している子ども、表現をやり切って思いがあふれ感動の涙を流している子ども、優勝して感極まってうれし涙を流している子どもなど、様々な思いの涙を流している子どももいました。

このように本番を目の前にして緊張したり、悔し涙、うれし涙、感動の涙が溢れてきたりするのは、当日を迎えるまでに、これまでの取り組みの中で、一人一人に様々な「物語」があったからだと思えます。運動会といった学校行事を行う意味は、このような様々な感情が湧き上がることを「経験」することにあります。もちろん「うれしい」「感動」を全員が味わえればいいのですが、なかなかそうはいきません。思い通りにいかなくてくやしかったり、ドキドキと緊張したり、そんな心の動きを「経験」することも、大きな学びとなります。運動会という日常では味わえない「経験」を通して、一人一人の子どもが一回り大きく成長してくれたのではないかと思います。子どもたちが考えたスローガンに「みんなが主役」という言葉があります。とてもすばらしいスローガンを考えてくれました。正に、一人一人に自分だけの「物語」があり、一人一人がその「物語」の「主役」です。運動会は終わりましたが、これからも一人一人の「物語」は続きます。これから子どもたちがどんなストーリーを描いていくのか、今後の活躍が楽しみです。

このようなすばらしい運動会ができたのは、子どもたちのがんばりはもちろんのこと、保護者の皆様や地域の皆様のご支援とご協力の賜物です。本当にありがとうございました。また、PTA 役員の皆様、スポーツ委員の皆様、おやの会の皆様には準備から大会運営、後片付けまでと大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。